
作者の夢から始まった物語

貴方と私の10の約束

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

作者の夢から始まった物語

【Nコード】

N1333Y

【作者名】

貴方と私の10の約束

【あらすじ】

主の寝ていた時に見た夢話を広げます。まあ、駄作ですが見てやって下さい。

更新は不定期です。

第1話（前書き）

特に無し

第1話

この話は作者の夢の中で見た話です。

私はその時戦場に居ました。銃弾が飛び交いたたましくなる銃声と爆音それは夢とは思えない程の鮮明沙でした。

ふと隣を見ると、M16を持った若い兵士が居ました。

兵2「少尉殿、我々はどうすればいいのですか!？」

若い兵士は私に指示を求めて来ました。何時の間にか周りには10人の兵士が私の中心に集まって居ました。

兵1「隊長、このままでは何時まで立つても前に進めません」

もう一人の若い兵士が言いました。

私主「よし、上等兵無線で本部に航空支援の要請を出してくれ、それで前方の機銃群を一層する。」

上等兵「了解しました。」

主「よし皆、敵はこのビルの左側、大通りを真つ直ぐ50m行つた右側の建物に居る、そこで我々は二手に別れる、一方は裏路地から建物の反対側え、もう一方は目的の建物の正面に有るビルで待機、ヘリの機銃掃射後一斉に突入する。」

上等兵「隊長、本部からの要請の有った航空部隊が後5分程で到着するそうです。規模はリトルバードが2機、ミニガンと40ミリロケットを装備しているそうです。」

主「よし、じゃあリトルバードが来る前に攻撃位置に着くぞ作戦開始だ!!」

私は正面のビルに行く部隊に行きました。ビルに向う途中で目が冷めました。

第1話（後書き）

感想とか待ってます。

第2話（前書き）

2話です。ここからは夢の中での話を膨らませて行きます。 R 1 5
はここで出ます。

第2話

兵1「隊長、位置に着きました。」

副隊長で有る兵士が私に言いました。その時遠くの方からヘリの音が聞こえてきました。

ヘリパイロット「此方ジャガー2-1両機の2-2と共に、支援準備完了。何時でも攻撃出来る」

上等兵「了解したジャガー2-1、此方の位置は視認出来るか？」
ヘリパイロット「確認した。」

上等兵「俺達の真正面の建物に敵が居る、建物4階の機銃群を一層してくれ！」

ヘリパイロット「了解した攻撃を開始する！」

リトルバードが目的のビルに向かってミニガンを発射している、ズガガガガ けたたましく鳴る銃声と葉莢の落ちる音が聞こえた、敵は反撃する暇も無く、ただやられて行った。

ヘリパイロット「敵機銃群一掃、任務完了」

上等兵「了解したジャガー2-1、2-2支援に感謝する」

主「よし、突入して建物内を占拠するぞ、G O G O G O」

一班と二班がビルの中に突入して行った。

兵3「フラッシュ投擲」

隊の兵士がフラッシュを投げた、中からバン、と言う音と共にフラッシュが爆発した。

兵2「突入、突入」

爆発と共に、一斉に突入して行く。
バンバンバンと三回程の銃声がした。

敵は頭を撃たれその場で絶命した。

兵3「右側クリア」

兵2「左側クリア」

主「よし次は二階だ、どんどん行くぞ！」

二回へ続く階段を上がろうとした時、突然階段上から敵兵がAK 47を持って飛び出して来た。バババババ 銃声が響いた

兵2「うあゝ」

ボタンと共に前に居た兵士が倒れた、すかさず私は HK 416を敵兵目掛けて撃った。

ダダダダダ 銃声が響いたかと思うと既に敵兵は倒れて居た。

兵3「おい、大丈夫か!? 衛生兵来てくれ!!」

衛生兵「大丈夫です。弾は貫通してます。」

兵2「畜生! これで俺も本国送りか?」

主「よし曹長、一等兵と此処に残れ、他の奴は俺と一緒に屋上へ行くぞ!」

兵1「隊長、屋上及び3階4階を制圧しました。負傷者3名死亡1人です。敵の捕虜を2人確保しました。」

私は数秒間無言になりそれからこう言いました。

主「わかった、誰がやられた?」

兵1「軍曹です。」

主「そうか・・・帰ったら一緒に飲みに行くつもりだったんだが、残念だな」

兵1「隊長、軍曹とは何時から一緒だったんですか?」

主「この隊が出来てからずっと一緒だった。昔からこいつだけは絶対に死なないと思ってたんだがな。」

兵1「隊長、人は何時か死にます大切なのは死んだ人間の分まで私達が一生懸命生きる事だと思います。」

主「そうだな准尉、俺達も軍曹の変わりにしっかり生きなければならぬよし上等兵、本部に連絡してくれ、S1ルート確保、機甲部隊通行可能、現状を異常する為に増援部隊を送れ、それから負傷者を運び出すためにヘリを要請してくれ。」

上等兵「了解しました。」

主「准尉、皆を4階に集めろ!それから、武器と弾薬を有りつただけ集めろ。」

兵1「了解しました。」

主「よし、増援部隊到着まで此处を死守するぞ!!」

第三話え続く

第2話（後書き）

更新しました。

ご意見、ご感想をお待ちしております。
次回は作品設定です。

第2・5話 作品設定（前書き）

作品設定です。長期連載なら設定が必要かと思いました。なお、使用している武器が、時代に有っていないかもしれませんが、そこは気にしないでくれると嬉しいです。
それではどうぞ！

第2・5話 作品設定

作品設定

主の所属する部隊

第343歩兵大隊A中隊第1小队

主の小队の編成

分隊支援火器

2名 主武装 M249 主武装 2AT4 又は ジャベリン

副武装 S & amp; W M19

スナイパー兵

1人 主武装 バレット M82 又は レミントン M700 副武装

P90 又は MP5A5

無線兵

1人 主武装 クリス・スーパー? ベクター 副武装 ベレッタ

M92

衛生兵

2人 主武装 シグSG552 副武装 IMI デザートイーグル

主

主武装 H & amp; K HK416 又は FN SCAR

その他兵士

4人

主武装 M16、M4 カービンなど

登場人物

主 作者の本人です。階級は少尉、多分階級が上がります。基本隊
長と呼ばれます。

本名 安藤翼

兵1 この部隊の副隊長、階級は准尉こっちも階級は上がります。
愛称はマック

兵2 一般兵 階級伍長此方も階級上がります。愛称はベック

兵3 分隊支援火器を持っている兵士、階級は一等兵此方も後々上がります。愛称はタリズマン

衛生兵 その名の通り衛生兵階級は上等兵、愛称はジョン

上等兵 隊の中で唯一の無線兵、階級は名前のまま上等兵、愛称はカーク

その他の部隊員は出て来た時に紹介します。

第2・5話 作品設定（後書き）

いかがでしたでしょうか？因みに、隊長の本名は主本人の名前を取っています。何か意見や感想が有りましたら是非書き込んで下さい。

第3話（前書き）

第3話です。新キャラが出ます。それではどうぞ。

第3話

建物制圧から5分後・・・

カーク「隊長、司令部から連絡です。増援部隊は後10分で来ます。」

主「わかった、上等兵負傷者の容態は？」

ジョン「3人中2人は軽症ですが、1人は重症です。30分以内に設備の整った所で処置しないと危険です。」

主「わかった、何時でも運び出せる様にしておけ、屋上監視班状況は？」

フェデル「此方も異常無し、嫌、待ってくれ、畜生BMPだ！！その他RPGやAKを持った敵兵が100人以上！」

主「了解、此方でも確認した。タリズマン、ジャベリンかAT4何でも良いから装甲車両を破壊出来る物は有るか？」

タリズマン「敵が持っていたRPGが有ります。」

主「よし、有りったけブチ込め！！」

タリズマンや他の隊員がRPGをBMPに向かって発射した。バシューーーーードーン！！大きな爆発と共にBMPが炎に包まれた。

タリズマン「やったぜ、ざまあ見やがれてんだ！！」

主「まだだ、まだだ敵兵が居る。屋上状況は？」

フィデル「更に敵兵が接近、クソ！一体何処から湧いて出て来やがる！！おい、マジかよ！！T72だ、T72が2両通から接近中

！！」

主「此方でも確認した。引き続き応戦しろ、カーク増援部隊は後何分で来る？」

カーク「後5分程で到着するそうです。」

その時、ボンと言う音がしたかと思うとドカーンと言う音そこで私は意識を失った。

次に目が覚めた時、私はヘリの中に居た。

ジョン「隊長、隊長、大丈夫ですか？准尉殿隊長の意識が回復しました。」

マック「おい、大丈夫か？心配したんだぞ！」

主「一体何が有った？」

マック「俺達の居た4階にT72が発射した砲弾が飛んできたんだ。」

主「被害は？」

マック「安心しろ、一人も死んで無い、負傷者1人だ！」

主「そうか、俺が気絶して居る間に何が有ったか説明してくれるか？」

マック「わかった」

そう言つて彼は語り始めた。

続く・・・

第3話（後書き）

どうだったでしょうか？感想や意見お待ちしております。

新キャラ情報

愛称 フィデル

階級 伍長

第4話（前書き）

第4話です。15話位行ったら、もう一度作品設定を書きます。それでわどうぞ。

第4話

マック「畜生、奴らやりやがったな！皆、大丈夫か？各員状況知らせろ！」

ベック「准尉殿、隊長が爆発の衝撃で意識を失いました。」

マック「何？隊長の様子は？」

ベック「ジョンが言うには気を失っただけだと！！！」

マック「クソ、これより俺が指揮を取る、カーク増援部隊は？」

カーク「後1分だそうです。」

マック「何が来る？」

カーク「AH64Dが2機UH-60Lが4機AH-1Wが2機です。」

マック「わかった、皆聞いている通りだ！後1分で増援が来る、駄出の準備をしろ。」

フィデル「おい、お客さんがもう150人追加だ！！！」

マック「わかった、フィデルお前も4階に來い駄出準備を手伝え！」

フィデル「了解！」

その時遠くの方からヘリの音が聞こえ、それは段々と此方に近づいて來た。

アパッチパイロット「此方、第23攻撃ヘリ中隊所属、ブラックハンマー1両機で有るブラックハンマー2と共に接近中 30mm機関砲 ヘルファイア ハイドラ70ロケット弾を装備、攻撃準備完了」

ヘリパイロット2「此方、第55攻撃ヘリ中隊所属 ブラックキャット1 両機のブラックキャット2と共に接近中 20mm機関砲

TOWミサイルの装備 此方も攻撃準備完了だ！」

マック「やっと来てくれたか、全く遅いんだよ！」

ヘリの機銃が敵を肉片へと変えて行く、ミサイルが戦車を粉々にし

て行く、いつ見ても嫌な光景だ、これじゃあ一週間は肉と赤い物は食えないな。

ヘリパイロット「敵兵排除確認、これより周辺監視任務に当たる」
ヘリが周辺警戒に行くと同時にブラックホークが大通りの上でホバリングして居る。中から兵士がラベリングで降りてきた。

海兵隊員「行け行け行け周辺警戒をしる。」

マック「さあ、お迎えが来たぞ皆出発だ！」

フィデル「全く、今日は今までで一番長い一日だったぜ！」

タリズマン「全くだぜ、出来ればこの後休暇でももらいたいね！！」

マック「ほら、無駄話は良いからさつさとヘリに乗れ！」

海兵隊隊長「ちよつと良いかな、君がこの部隊の隊長かね？」

マック「いえ、隊長は敵戦車の攻撃で気絶中ですので、私が変わりに指揮を取っています。」

海兵隊隊長「そうか、それは残念だ、ならば君の指揮官が起きたら、此処を良くぞ守り切ったと褒めてくれ、それではな。」

マック「ハッ、必ず伝えます。」

そして、ヘリは飛び立った・・・

マック「そして、隊長が意識を取り戻し今に至ります。」

主「そうか、済まなかったな俺が気絶したばかりに、お前達に迷惑をかけたな。」

ベック「何言ってるんですか？迷惑だなんて思ってる奴は内の隊に要る訳無いじゃないですか」

カーク「そうですよ、仮に迷惑だなんて思っている奴が居たら、この隊の人間じゃありませんよ。」

主「俺は本当にいい部下を持ったな皆、ありがとう。」

ヘリ部隊は彼らを乗せて洋上の巨大空母へ飛んで行った。

続く

第4話（後書き）

どうでしたか？次回は、主の考えたオリ空母が出て来ます。スペースはその時に書きます。でわ皆さん、ご意見感想お待ちしております。

第5話（前書き）

第5話です。今回オリ主が考えた空母が出て来ます。それではどうぞ。

第5話

ヘリパイロット「見えたぞ、第10艦隊旗艦、ペンタゴンだ！」

私はヘリの窓から艦隊の中心にいた巨大空母を見ていた。

ベック「なんてデカイ空母なんだ、しかも双胴艦だぞー!!」

カーク「最大航空機搭載量500機のペンタゴン級超巨大双胴空母だそうです。今の所太平洋に要るペンタゴンと同型艦のホワイトハウスのみです。」

タリズマン「あんな物を作れるなんて、俺達の国も中々やるな！」

空母管制官「ポセイドン1-1、着陸を許可する。第2甲板のDポイントに着陸せよ。」

ヘリパイロット「着陸するぞ、さつさと座れ。」

そして、ヘリは巨大な空母の甲板へ降り足った。

ベック「近くで見ると島みたいだな」

マック「まさか、こんなにデカイなんて思わなかったな、流石に空軍機も発艦出来るだけ有るな！」

その時艦内放送が流れた

艦内放送「第343歩兵大隊A中隊第1小隊の小隊長は至急第1ブ

リーフィングルームに集合せよ。」

主「呼ばれたな、皆は兵員用の集会室に行き、そこで別名有るまで待機！！」

隊員「了解」

私は急いでリーフィングルームへ走った。

主「それにしても、艦内の案内図を見ても道に迷いそうだな、えーっと何々、此処からこの通路を真っ直ぐ行った突き当たりの部屋か、よし行くか。」

私は、走ってリーフィングルームの前まで来た。

主「失礼します、第343大隊A中隊第1小隊隊長の安藤翼です。」

司令官「おお、良く来たな安藤少尉、さあそこに座りたまえ。」

私はそう言われると最前列の椅子に座った。

大隊長「全員揃ったな、まず先ほどの作戦はご苦労だった、君達がルートを確保してくれたおかげで第3機械科師団は安全に目的地へ到着出来た。早速で悪いがこの大隊で何名か隊員を指名する。指名された隊員は明日の13:00時までに第4リーフィングルームに集合せよ、では今から名前を呼ぶぞ。」

続々と名前を呼ばれて行く、私の部隊から5人呼ばれ、他の小隊からも5人程呼ばれた。

大隊長「最後に安藤翼少尉、以上10人だ、何か質問は？」

私は、すかさず手を挙げた。

大隊長「安藤少尉何かね？」

主「大隊長殿、今回の選出は別舞台に編入ですか？それとも仮の移動なのですか？」

大隊長「別部隊に編入と言う形になる。」

主「それでは残りの隊員は小隊どうなるのですか？」

大隊長「嫌、足りなくなつた隊員は補充兵にて修正する。」

主「そうですか…」

私は歯がゆい気持ちに生りながらも席に座つた。

大隊長「他に質問が有る物はいないか？では、呼ばれた物は明日の集合に遅れないようにな、解散！！」

兵士達が続々と部屋から退出して行つた。私も部屋から出ようとした時、司令官に呼び止められた。

大隊長「安藤少尉、今回はご苦労だつた。君達の部隊がS1ルートを確保してくれたおかげで、機甲部隊の損害が全く無かつた。本当に良くやつた。」

主「いえ、私はやることをやつたまでです。」

大隊長「そうか、ご苦労だったな、今日はゆっくり休んでくれ、明日の集合に遅れん様にな。」

私は敬礼してから部屋を出た。そして私は、仲間が待つ兵員用の集会室に行った。
続く・・・

第5話（後書き）

今回登場したオリ空母の設定
ペンタゴン級超巨大双胴空母

全長 1200m

全高 680m

水線長 200m

排水量 500・000t

使用機関 SA35新型原子炉4基

速力 35ノット

乗員数 約17000人

武装 ファランクスCIWS 30基 シースパロー短SAM8

連装発射機 20基 RAM近SAM21連発射機20基

こんな感じです。まあ架空空母なので、この空母に関して何かご意見ご感想お待ちしております。

第6話（前書き）

第6話です。今日はあとがきに、重大発表をさせていただきます。
それでは第6話どうぞ！！

第6話

一方集会室では…

ベック「隊長やけに遅いな。」

ジョン「会議が遅れてるんじゃないか？」

ベック「遅れてるって言ってもあの糞大隊長殿の長つたらしい話を聞くだけだろ？」

そこえマックが口を挟んだ。
。

マック「何か重要な話をしているんじゃないか？おいカーク、何してるんだ？」

カーク「ああ、さっきの作戦で亡くなった軍曹の遺品を整理してたんですよ。」

タリズマン「どれ、俺も手伝ってやる。」

カーク「気を付けて扱って下さいよ、軍曹殿の家族に届けなきゃいけないですから。」

タリズマン「わかってる、軍曹には俺も世話になったからな。」

マック「そうか、あいつはもういないのか、さみしくなるな」

タリズマン「大丈夫ですよ、軍曹の代わりに俺とフィデルが盛り上げ役になります。」

フィデル「何で俺なんだよ？盛り上げ役ならベックもいるだろ？」

タリズマン「あいつは駄目だ、酒と女しか相手に出来ない野郎だからな。」

ベック「聞こえてるぞタリズマン、お前の彼女も俺の物にしちまうぞ？」

タリズマン「へん、どうせ今頃は俺以外の男としてるよ。」

カークとタリズマンが軍曹の遺品を整理している一方

ベック「そう言えば、ジョンがやけに静かだな、おいジョン、何やってんだよ？」

ベックがジョンに声をかける、ジョンは手を止めてベックの方へ向いた。

ジョン「ああ、衛星電話室で家族に連絡を取りたいんだが、この艦の衛星電話って時間制だろ？しかも一人2分までで一日一回と来てるからな、最初に何を言うか紙に書いて決めてるんだ。普通の奴だと2分位で十分だけど、俺の場合5カ月も連絡取れてないから言いたい事が沢山あるんだ。」

一般兵2「そうか、俺達の部隊はずっと戦闘して帰還ついたら偵察また戦闘で結局連絡出来なかったな。俺も母さんや父さんに連絡を取らなきゃな。」

ベック「紙に書いてもいざ話すと頭が真っ白になるもんだぜ！」

ジョン「俺もそう思うが、無いよりマシだろ？」

ベック「まあそうだけだよ。」

その時、集会室のドアが開いた。

マック「お、隊長が来たぞ全員起立、敬礼、直れ。」

主「まあ、皆座ってくれ、皆に重要な話がある、今から名前を呼ぶ奴は明日の13:00時に第4ブリフィングルームに集合せよ。今から名前を呼ぶぞ。」

続々と名前が読み上げられて行く。

主「以上5名だ、何か質問は？」

ベック「質問なんですが、今呼ばれた連中は別の隊に編入と言う事ですか？」

主「そうだ！」

タリズマン「なんだよそれ、てことは何か？この隊は解散って事か？」

主「嫌、この小隊には、補充兵が来る。」

フィデル「でもこの隊以外で俺達に何処に行けってんだ。」

主「俺も隊の名前や任務内容を知らされていない、ただ行けばわか

ると言われた。」

ジョン「なんだよそれ？そんな任務も名前もわからない部隊に行け
って言うんですか？」

主「俺も不満は有る、だが選ばれた以上は軍人として任務を全うし
なきゃならんذار？」

マツク「その通りだ、俺も不満が無い分けじゃ無いが任務は任務だ、
言われた仕事は迅速に、かつ完璧に、それが俺達のモットオذار？」

主「皆、不満なところもあるだろうが俺について来てくれ、それと
俺はこの隊を去る、この隊で過ごした時間はとてもよかったありが
とう。」

マツク「起立、敬礼、解散」

隊員達が集合室を後にした。

続く

第6話（後書き）

ここで重大なお知らせです。流石に戦争小説じゃあ鑑賞数が増えないと踏んだ主は緊急脳内会議を実施、その結果このストーリーにゲーム及びアニメキャラを出演させる事に決定しました。

と言う事でこのストーリーに合ったゲーム及びアニメキャラを募集します。（ロボット系のキャラは主が判断します）

今の所主の考えで登場させるキャラ

COD4 mw 主人公のサイドの死亡キャラ

同じくMW2の主人公サイドキャラ死亡も含む

COD Bo 主人公サイド死亡キャラ含む

メタルギア及びメタルギアソリッドシリーズ スネークサイドの全キャラ

ゲームだけです。すみません。出来るだけ主と同じ部隊にしたいです。では、次回をお楽しみに！！

第7話（前書き）

すみません、更新が遅くなりました。では第7話どうぞ！！

第7話

翌日の13:00時

格納庫に各部隊から選ばれた隊員が集まって居た。そして、部隊長が前にでた。

部隊長「私がこの部隊の隊長を務めるケラーマン少佐だ、こっちは副隊長のヒューズ大尉だ、この部隊の事をまだ知らない者も多いと思う、簡単に言うと不正規戦部隊だ。部隊の詳しい構成については手元の資料を見てくれ、早速だが今度の任務のブリーフィングを始める、今回の任務は中東のある組織が作っている空間転移装置の拿捕又は破壊だ、施設内の研究員はなるべく確保しろ、何か質問は？」
私は、すかさず手を上げた。

主「第343歩兵大隊第一小隊隊長安藤です。質問なのですが、空間転移装置とは何ですか？」

ケラーマン「良い質問だな、お前達は四次元空間というものを知っているか？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1333y/>

作者の夢から始まった物語

2011年11月29日21時49分発行